

# 会員からのメッセージ

## 学びの時間



**大塚 理加**  
(2023 博 社会安全研究科)

本学の博士課程へ入学した2020年は、ちょうどコロナ禍が始まった年でした。東京から関西に伺うのがはばかれる時期でもあり、東京在住の私は入学式等への参加ができませんでした。また、その後の授業についても、主にオンラインとなりました。そのような状況でも、先生方や大学職員の方々に細やかなご配慮をいただき、特に不自由さを感じることはなく、学生生活を送ることができました。また、共に学ぶ友人にも恵まれ、社会人生活のみでは得難い、多くの経験をさせていただきました。3月に行われた学位記授与式では、受領者ひとりひとりが前田学長から学位記を受け取ることができ、各人の晴れやかな笑顔と共に、3年間のコロナ禍の終焉を感じました。

私は、高齢者の防災・減災の対策をテーマに博士論文をまとめました。この論文の執筆過程は、これまでの自分の研究と向き合うとともに、今後の研究について考えていく貴重な時間となりました。また、私の研究は、質問紙調査やインタビュー調査を分析する手法が主であり、これらの調査を実施するためには、調査対象者のみならず、関係する多くの方々からのご協力が必要となります。論文をまとめていく過程で、調査にご協力いただいた多くの方々のお顔が浮かんでまいりました。これらの方々には感謝するとともに、その結果を博士論文としてまとめられたことで、皆様のお気持ちにも少しはこたえられたのではないかと感じております。

私は、主に高齢者福祉の分野での研究に従事してまいりましたが、東日本大震災をきっかけに高齢者と災害についてのテーマでの研究を始めました。その中で、災害についての学術的な知識の不足を感じ、災害研究についての学びを深めたいと考え、社会安全研究

科 減災政策研究室の永松先生のもとで学ばせていただくこととなりました。また、本学における社会人奨学金の制度は、博士課程進学を決意を後押ししてくれました。本制度による支援により、経済的な不安が軽減されました。学費の捻出に不安がある社会人学生にとっては、とてもありがたい制度でした。

博士号をいただいたことは、今後の人生において、とても励みになります。そして、学位取得について、多くの方々のご支援、ご協力をいただいたことも、私の人生における宝物となりました。コロナ禍での学びを支えてくださいました社会安全研究科の先生方や職員の方々、そして大学院の友人、職場の同僚には、深く感謝いたします。特に主査の永松先生には、このような貴重な機会を与えていただいたこと、ご助言や励ましをいただいたことに深謝いたします。

本学での3年間では、真摯に学問と向き合うことができました。巷で言われている、即効性のあるリカレント教育とは一線を画す、深い学びを得られたと感じております。今後は、本学での多くの学びを活かし、災害時の高齢者の減災に資する研究を続けていきたいと考えています。諸先生方には、今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

## 夢を叶えた6年間



**大下 眞穂**  
(2023 修 心理学研究科)

心理学を学びたい。これは、中学生の頃からの私の夢でした。この夢を叶えるため、関西大学社会学部社会学科心理学専攻に入学し、卒業後、関西大学大学院心理学研究科心理学専攻に進学いたしました。仮説を立て、検証する。その中で新たな発見がある。大学院への進学を決めた理由は、学部の4年間でこの喜びに魅了されたからでもありました。

大学院では、学部からの研究テーマである、完全性